



思考への探求

校内研究だより

令和5年10月25日

No.3

学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～



今年度、第3回目の校内研究を行った。今年度の新たな研究内容には、「言葉の力」がある。今年度重視する点は、「子ども達が自分の思いをどのように表現してくか」である。その点を重視した授業展開を研究していく。今回は2年2組、4年1組で算数科の校内研究授業を行った。



2年2組の戸城教諭は「かけざん」を題材に、乗法の場面を式やおはじきで表す活動を通して、乗法の意味の理解を深める、という授業を行った。「1つ分の数」の「いくつ分」という言葉を大切に、具体的事象から抽象的事象に昇華していく内容だった。

4年1組宮崎教諭は、面積のはかり方と表し方」を題材に、既習の学習を用いて複合図形の求積方法を考え、説明しあうという活動を行った。わからない子を見つけ支援しようとするスタンスを基盤に、話し合い活動を多く取り入れ、全員が「既習の知識・技能を基にして考えること」を目指した。



その後の研究協議会では、新潟市立上所小学校の志田倫明先生を講師としてお招きし、授業の学び方、「生きて働く」知識技能の習得についてお話をいただいた。

また、算数科において、本校の研究副主題である「言葉の力」をどう発揮させるのか、そのために教師の手立てを考察するのが授業考察である、とのお話もいただいた。

今回学んだことを、これから子ども達と向き合う中で、活かしていきたい。

